



## 個人質問



### 浜口かず子 議員



#### 財源はある！ こども医療費無償化の18歳まで拡充求める

市は財政が厳しいと市民に我慢を求めながら、R7年度決算は、予算化していた基金（市の貯金）30億円に手をつけることなく黒字を達成。上下水道事業は合計10億円以上、収益（競輪）事業で13億円強の大幅な黒字など、基金を積み増しています。高知市は県内で唯一子どもの医療費無償化が15歳にとどまっていますが、少子化が深刻さを増す中、18歳まで無償化した自治体は全国で83%（R6年4月現在）を超え、さらに広がりつつあります。高知市でも実現を求める声が高まっており、2億円程度あれば可能と、市長にいつまでに実現を目指すのかただしました。市長は「どこに住んでいても等しく安心して子どもを産み育てることができる環境を保障することは国の責務であり、今後も全国統一の助成制度創設と財政措置を国に要望する」と述べ、実現に踏み出すことに背を向けました。

#### 災害関連死を生まないトイレ対策求める

能登半島地震などでは発災後1カ月で亡くなった方が約半数であり、避難所環境の整備が関連死を生まない鍵と、スフィア基準に基づくトイレ対策をたずねました。防災対策部長は、今年度、トイレの質や衛生管理、設置場所の安全性などに配慮した避難所運営マニュアルのひな型改定の準備をすすめると答えました。地域の防災訓練などで実効性を高めていくことが求められます。

### 下本ふみお 議員



#### 高知市教育委員会はプール事故の総括をすべき

市長は、検証報告が市教委の総括と捉えている。同報告では、「構造上のプールの深さを前提とせず決定したこと」「学校と遺族をつなぐ連絡役がいなかったこと」「ご遺族への対応を支える市教委の動きがなかったこと」等、市教委としての配慮の欠如と支援不足が指摘されている。そのうえで、より一層実行的にし「将来」に備え「市教委において具体的な対応を示す資料の作成は必要であると捉えている」と答弁。

教育委員会としての総括と今後の指針作成を、強く求めなければなりません。

#### 介護保険料は引き下げを！

市は介護保険について、R9年度より3年間の計画を検討中ですが、現在20億円を超える基金が貯まっています。これを被保険者に還元すべきで、介護サービスの向上や保険料を値上げしないことを前提にして計画をつくることを求めました。健康福祉部長は、「慎重に検討していく」と答弁。市民が意見をあげる運動が大事です。

### 宮本なおき 議員



#### 公立小中学校の存続について。「浦戸小・長浜小・南海中の統廃合」はあるのか？ 市長に問う。

この3校について統廃合などが既定路線となっているのか、地域住民が心配している。地元の反対があっても強行するのか？と市長に問いました。

「地域の皆様それぞれに歴史や思い、愛着があることは認識している。社会が変化する中、今ある学校をそのまま将来に引き継ぐことが最善だとは限らない。子どもを中心に議論する。」との答弁でした。

#### 「家族介護用品支給事業」の再開を求める！

この事業は在宅介護をしている世帯に、おむつ等の購入（年間最大6万円）を支援する大切な事業です。しかし今年度、市の負担額179万円で継続できたのに市は打ち切りました。これは在宅介護世帯の切り捨てです！

「財政状況等を勘案し廃止した。再開も困難である」と市長。事業の再開を求めています。

#### 市職員の業務上の安全確保の必要がある。現状はどうか。

個別訪問時など、職員へのハラスメント対策はどうか。困難ケースへの対応を聞きました。健康福祉部長からは「単身での対応に職員が不安を感じる際には、複数人で対応し、トラブルの未然防止に努めている」と答弁。職員の安全確保が必ず図られるよう、求めています。

\* \* \* \* \* ご要望など、お気軽におよせください。 \* \* \* \* \*



浜口かず子



下本ふみお



岡田はるか



宮本なおき



ふじき真由美

